活用ナビ

- ①【ねらい】古墳の広がりから、3世紀から5世紀ごろの豪族の様子について 考える。
- ②● 題を読みましょう。
 - 赤の点は何でしょうか。(前方後円墳) ※右下の凡例。
 - 古墳の長さが 300m 以上の記号と、150m~300m未満の記号を確認しま しょう。 ※右下の凡例
- ③ 前方後円墳の分布で気づいたことを書きましょう。 ※多い地域だけではなく、広く東北から九州まで分布していることに着 目させたい。
- ③ 規模の大きい古墳はどのあたりに多いでしょうか。 ※教科書にある大和と河内の地名にも触れる。
- ④ 古墳が集中している地域があるのはなぜでしょうか。 ※その地域の豪族たちが強い勢力をもっていたことだけでなく、連合し て大和朝廷という政府を作っていたことをおさえたい。
- ④● 埼玉県と熊本県の出土品から、わかることを話し合いましょう。 ※地方にも大王の影響があったことを理解させる。
- ⑤● 古墳の広がりについてわかったことをノートに書きましょう。 ※「広がり」を意識して書かせたい。

6年-5

2-1 国づくりへの歩み 巨大古墳と大王

₽84~P85

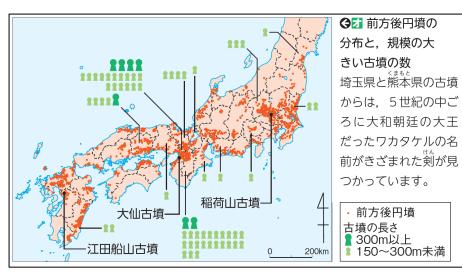


- ①【ねらい】古墳の広がりから、3世紀から5世紀ごろの豪族の様子について考える。
- ②【基本】教科書の地図 2 を見よう。
- ・題を読もう。
- ・赤の点は何だろうか。
- ・古墳の長さが 300m 以上の記号と、150m~300m未満の記号を確認しよう。
- ③【ポイント】古墳の分布についてくわしく読み取ろう。
- ・前方後円墳の分布で気づいたことを書こう。
- ・近畿、関東の北部、瀬戸内海周辺や九州に多い。
- ・北は東北、南は九州まで広い範囲に分布している。
- ・規模の大きい古墳はどのあたりに多いだろうか。
- ・今の大阪府と奈良県に多い。
- ・大和や河内を中心とした近畿地方に集中している。
- ④ 4) 古墳が集中している地域があるのはなぜだろうか。
 - ・その地域の豪族たちが力をもっていたから。
 - ・今の奈良県や大阪府の豪族たちが、他の地域の豪族を従えていた。
 - ・連合して大和朝廷という政府を作ったので、ますます古墳が集中した。
 - ・埼玉県と熊本県の出土品から、わかることを話し合おう。
 - ⑤古墳の広がりについてわかったことを書こう。

古墳は豪族の墓であり、大きさは勢力の強さを表している。

近畿を中心とした豪族は広く関東や九州の豪族を従えるようになった。

資料の読解



3世紀の終わりごろから、地域を支配していた豪族の墓である古墳が 作られ始めた。この分布図は、古墳の中でも代表的な形式である前方後 円墳の分布と、規模の大きい古墳の数を表したものである。

「古墳の長さ」に着目すると、大仙古墳をはじめとする規模の大きい古墳が、大和(奈良県)や河内(大阪府)を中心に多く作られている。このことから、当時近畿地方を中心に有力な豪族が存在していたと考えられる。

また,前方後円墳が,九州から関東の各地域や東北の一部まで広がっている。近畿の大和朝廷が九州から関東まで支配を広げていたことが,この図からも推測できる。

読解の方法

- (1) 分布図の読み取りで大切なことは、何の分布なのかを正しく理解することである。そこで、題と図で用いられている記号について、最初に確認する。その際、前方後円墳がどのような形をしているか、規模の大きい古墳とはどれぐらいなのか説明を加える。
- (2) 次に分布が集中しているところに着目させる。まずは、前方後円 墳が、現在の近畿、関東、瀬戸内海周辺、九州に多いことを子ど もたちは気づくであろう。また、規模の大きい古墳は今の大阪府 と奈良県に集中していることがわかる。前方後円墳の分布が多い 地域の中でも、近畿には大きな古墳がいくつも存在していること を理解させる。
- (3) 分布の傾向がわかったら、その理由を考えさせる。この場合には、 「古墳が集中している地域があるのはなぜだろうか。」と、教科書 の「学びのてびき」に基づいた問いで、ワークシートに書き込ま せる。その地域の豪族の勢力の強さとその広がりについて考えさ せたい。